

鶴岡市地域福祉計画・鶴岡市地域福祉活動計画  
第1回 支え合いの仕組みづくり部会会議概要

- 1 日 時 平成 27 年 10 月 2 日（金） 午後 2 時 50 分～午後 4 時 30 分
- 2 場 所 にこひる 大会議室 1
- 3 出席者
  - 【アドバイザー】 日本地域福祉研究所運営委員：染野享子氏
  - 【策定委員】 佐藤智志氏、佐々木榮三氏、橋本正輝氏、勝木正人氏、佐藤美喜雄氏、千田洋子氏
  - 【ワーキングメンバー】 市副班長：鈴木英昭  
市社協班長：多田隆佳、市社協副班長：菅原美津子
  - 【担当職員】 市：工藤真由美、市社協：大戸智博
- 4 自己紹介
- 5 部会長の選出  
鶴岡市コミュニティ組織協議会会長 佐藤智志委員に決定
- 6 部会提出資料について  
【第1回支え合いの仕組みづくり部会説明資料】に基づき担当職員から説明
- 7 話題提供
  - (1) 第一学区安心安全絆づくり推進会議「誰も孤立させない絆づくりプロジェクト」について  
佐藤智志 委員（第一学区安心安全絆づくり推進会議会長）から資料に基づき説明
  - (2) 由良社会福祉協議会「多様な知恵と地区の強みを活かした見守り・支え合い活動」について  
佐藤美喜雄 委員（由良社会福祉協議会会長）から資料に基づき説明
  - (3) 市社会福祉協議会藤島福祉センター「ふじしま地域支え合いプランーみんなの藤島いいどごプランー」について  
多田隆佳 市社協班長（市社会福祉協議会藤島福祉センター長）から資料に基づき説明

## 8 協 議

住民主体の見守り・支え合い活動を進めるために必要な地域力、近隣・町内会・小学校区単位の取り組み、小学校区における推進組織等について意見交換

《委員》第一学区から報告のあった安心カードについて

○個人情報保護法、個人情報保護条例との関連

- ・要支援者名簿の作成について、本人の生命を守るための名簿であっても個人情報保護法に抵触するということがあり、ネックになっている。どの程度進めたらよいか疑問がある。
- ・情報の共有、認知症者に対する同意の判断など、個人情報についてどのように取り扱えばよいか説明をお願いしたい。

《委員》行政が一方的に動いても、地域の協力体制がなければ名簿を作っても有意義に使えない。自主防災組織の中で支援体制を作る上では、協力して名簿を作りましょうということになっている。

ただし法律上、個人情報審議会の了解を取る必要があるようだ。

第一学区では、役員、民生委員が訪問し同意を得る。→ 名簿を町内会で共有。マップに落とす。→ 隣組またはブロック単位で支援者・支援協力者をセットにし、グループで支援する体制をとっている。

《委員》世帯数の減少について、コミュニティ計画では、人口問題研究所の推計から、核家族化の時代は終わり 1人暮らし世帯も減少し、これから5%、10%世帯数は減るだろうと予測している。

自治振興会は世帯からの会費で運営しているため、世帯数が減るということは大変な問題。自治組織も運営されなくなってしまう。

《委員》手向地区は今年度から地域活動センターとして活動が始まり、新たに防災、福祉分野も関係してきた。

災害時の対応について、ある程度自分たちの力で切り盛りをとのことから、組織作りが必要と感じているし、そのためには名簿も必要である。

会費の徴収がなく、自主財源をどこで作るかが現在の課題である。

《委員》町内会でも温度差がある。行政が地域に協力すべきである。

## 9 アドバイザー染野享子氏より

○3例とも先進的な事例である。

リーダー層の存在から、次に付随して共有する人が動いてくれている。

リーダーや地域の方が自分の地域に愛着を持っていることが、地域力につながっていくのではないかと感じた。

○第1学区の取り組みについて

災害マップ作りは有効であり、情報が共有されてきている。

この活動から、新しい社会問題の情報が見えてきたと思う。

○由良地区の取り組みについて

新しい若い世代、小中高生を巻き込むことは人材育成として有効である。

担う人材を視野に入れ、地域の中に安定づけ、高齢者と活動する中で「ここが好き」「一緒にやっていきたい」という気持ちが自然と芽生えると思う。

学校での福祉教育だけが正しいわけではなく、地元の高齢者と接することが長い目で見ると人材育成につながっていくと考える。

○個人情報について

災害や学校の連絡網を作成する場合は保護法に抵触しない。

ただし、手挙げ方式で同意は取った方がよい。

## 10 閉 会

次回の部会開催日を確認し終了



# 第1回 支え合いの仕組みづくり部会 説明資料

鶴岡市・鶴岡市社会福祉協議会  
支え合いの仕組みづくり部会事務局



# 鶴岡市高齢化率推移

## 1、鶴岡市の人口と高齢化率、全国の高齢化率

年次	鶴岡市の人口(人)		鶴岡市の総人口に占める割合(%)		全国の総人口に占める割合(%)	
	総数	老年人口 (65歳以上)	老年人口 (65歳以上)		老年人口 (65歳以上)	
			うち75歳以上	うち75歳以上	うち75歳以上	うち75歳以上
平成23年度	137,453	39,031	22.139	28.4%	16.1%	23.3%
平成24年度	136,146	39,409	22,509	28.9%	16.5%	24.1%
平成25年度	135,403	40,057	22,915	29.6%	16.9%	25.1%
平成26年度	133,831	40,689	22,983	30.4%	17.2%	26.0%
平成27年度	132,313	41,400	22,991	31.3%	17.4%	—

注1)鶴岡市のデータ:鶴岡市福祉課「鶴岡市地区別高齢化率等各種データ」

注2)全国のデータ:総務省統計局「人口推計年報」(平成26年まで)

## 2、鶴岡市の世帯数と各種高齢者世帯数・比率、在宅寝たきり・認知症高齢者数

年次	世帯数	一人暮らし高齢者世帯		高齢者のみ世帯		一人暮らし高齢者世帯+高齢者のみ世帯		在宅寝たきり +認知症
		世帯	比率	世帯	比率	世帯	比率	
平成23年度	47,491	3,564	7.5%	3,691	7.8%	7,255	15.3%	2,045
平成24年度	47,724	3,747	7.9%	3,888	7.1%	7,135	15.0%	2,263
平成25年度	48,186	3,829	7.9%	3,887	7.0%	7,216	15.0%	2,255
平成26年度	48,184	3,892	8.1%	3,789	7.9%	7,681	15.9%	2,556
平成27年度	48,293	4,068	8.4%	4,004	8.3%	8,072	16.7%	2,635

注1)鶴岡市のデータ:鶴岡市福祉課「鶴岡市地区別高齢化率等各種データ」

注2)「一人暮らし」=65歳以上単身世帯、「高齢者のみ世帯」=男65歳・女60歳以上夫婦のみ世帯+65歳以上のみ世帯

地域別 住民自治組織加入率比較

地域		年度	人口 ※1 (毎年度3月31日現在)	世帯数 ※1 (毎年度3月31日現在)	住民自治組織 加入世帯数 ※2 (年度当初)	全世帯に対する 住民自治組織加入世帯比率	住民自治 組織数 ※3	隣組数 ※3
静岡	市街地	H21	95,605	24,412	21,748	89.1	102	2,195
	郊外地			10,741	8,546	79.6	148	952
	市街地	H22	95,159	24,599	21,774	88.5	102	2,185
	郊外地			10,729	8,544	79.6	148	950
	市街地	H23	94,619	24,774	21,867	88.3	102	2,188
	郊外地			10,794	8,508	78.8	148	951
	市街地	H24	94,477	25,151	21,817	86.7	102	2,191
	郊外地			10,839	8,464	78.1	148	943
	市街地	H25	93,688	25,214	21,772	86.3	102	2,191
	郊外地			10,817	8,428	77.9	147	952
	市街地	H26	92,918	25,309	21,852	86.3	102	2,189
	郊外地			10,832	8,400	77.5	146	953
藤 島		H21	11,465	3,130	3,025	96.6	61	325
		H22	11,320	3,144	3,034	96.5	61	326
		H23	11,137	3,145	3,032	96.4	61	329
		H24	10,999	3,162	3,063	96.9	61	329
		H25	10,847	3,173	2,931	92.4	61	329
		H26	10,696	3,180	2,935	92.3	61	330
羽 黒		H21	9,233	2,553	2,394	93.8	71	346
		H22	9,145	2,552	2,394	93.8	71	348
		H23	9,046	2,565	2,407	93.8	71	348
		H24	8,947	2,577	2,403	93.2	71	348
		H25	8,814	2,561	2,310	90.2	71	348
		H26	8,681	2,587	2,289	88.5	70	311
櫛 引		H21	7,982	2,105	2,027	96.3	21	204
		H22	7,914	2,111	2,035	96.4	21	204
		H23	7,783	2,115	2,037	96.3	21	204
		H24	7,699	2,141	2,042	95.4	21	204
		H25	7,605	2,155	2,003	92.9	21	204
		H26	7,480	2,166	2,005	92.6	21	204
朝 日		H21	5,002	1,375	1,311	95.3	39	147
		H22	4,926	1,369	1,304	95.3	38	144
		H23	4,834	1,381	1,288	93.3	38	142
		H24	4,759	1,369	1,221	89.2	38	142
		H25	4,615	1,362	1,231	90.4	38	142
		H26	4,488	1,354	1,214	89.7	38	142
温 海		H21	9,212	3,025	2,946	97.4	27	302
		H22	8,980	2,987	2,909	97.4	27	302
		H23	8,727	2,950	2,870	97.3	27	298
		H24	8,522	2,947	2,868	97.3	27	298
		H25	8,262	2,902	2,728	94.0	27	298
		H26	8,050	2,865	2,696	94.1	27	294
計		H21	138,499	47,341	41,997	88.7	469	4,471
		H22	137,453	47,491	41,994	88.4	468	4,459
		H23	136,146	47,724	42,009	88.0	468	4,460
		H24	135,403	48,186	41,878	86.9	468	4,455
		H25	133,831	48,184	41,403	85.9	467	4,464
		H26	132,313	48,293	41,391	85.7	465	4,423

※1 人口及び世帯数は住民基本台帳に基づく数値(3月31日現在)

※2 住民自治組織加入世帯数は年度当初の各組織からの申告による数値

※3 自治組織数及び隣組数は年度当初の数値(藤島・羽黒・温海地域は回覧部数)



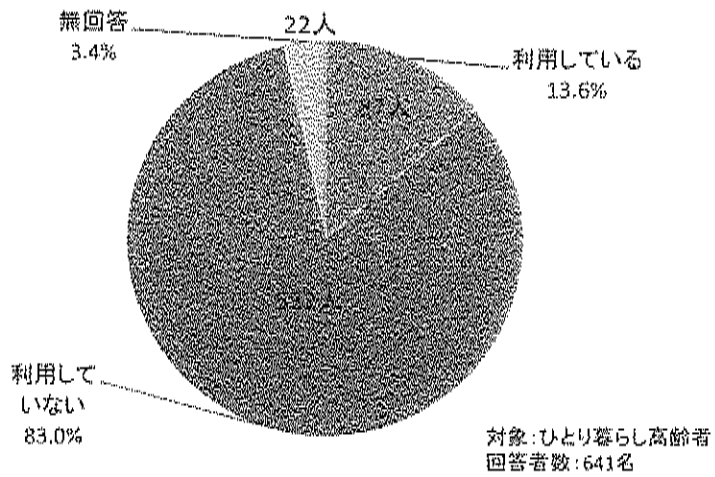
單位民兒協別 委員定数等

27.3未現在

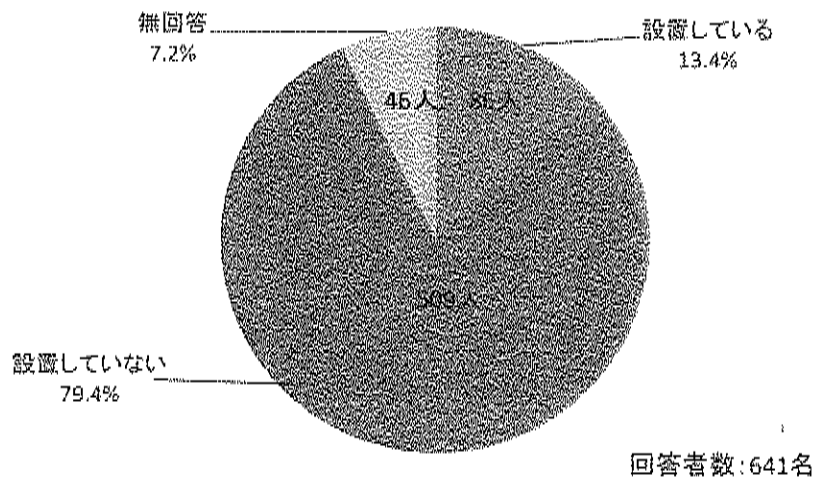
民生児童委員協議会名	学区・地区 ・地域名	定数	うち主任児童委員数	世帯数	平均担当 世帯数	延べ町内会 ・自治会数	平均担当町内 会・自治会数	友愛訪問件数	平均担当友愛 訪問件数
第1民生区民生児童委員協議会	第1学区	21	2	4,154	218.6	24	1.3	225	11.8
第2民生区民生児童委員協議会	第2学区	18	2	3,127	195.4	20	1.3	146	9.1
第3民生区民生児童委員協議会	第3学区	26	2	5,542	230.9	21	0.9	149	6.2
第4民生区民生児童委員協議会	第4学区	19	2	3,990	234.7	10	0.6	174	10.2
第5民生区民生児童委員協議会	第5学区	19	2	3,786	222.7	15	0.9	150	8.8
第6民生区民生児童委員協議会	第6学区	20	2	4,710	261.7	12	0.7	198	11.0
第7民生区民生児童委員協議会	斎・黄金	10	2	1,255	156.9	17	2.1	47	5.9
第8民生区民生児童委員協議会	湯田川・田川	9	2	712	101.7	12	1.7	46	6.6
第9民生区民生児童委員協議会	大泉	9	2	1,554	222.0	15	2.1	20	2.9
第10民生区民生児童委員協議会	京田・栄	9	2	826	118.0	19	2.7	11	1.6
第11民生区民生児童委員協議会	上郷	9	2	694	99.1	15	2.1	10	1.4
第12民生区民生児童委員協議会	豊浦	10	2	1,148	143.5	4	0.5	58	7.3
第13民生区民生児童委員協議会	加茂・湯野浜	10	2	1,090	136.3	20	2.5	74	9.3
第14民生区民生児童委員協議会	大山・西郷	23	2	3,553	169.2	49	2.3	122	5.8
藤島地区民生児童委員協議会	藤島	37	2	3,180	90.9	61	1.7	133	3.8
羽黒地区民生児童委員協議会	羽黒	24	2	2,587	117.6	70	3.2	90	4.1
櫛引地区民生児童委員協議会	櫛引	23	2	2,166	103.1	21	1.0	63	3.0
朝日地区民生児童委員協議会	朝日	24	2	1,354	61.5	38	1.7	45	2.0
温海地区民生児童委員協議会	温海	34	2	2,865	89.5	27	0.8	183	5.7
計		354	38	48,293	152.8	470	1.5	1,944	6.2

山形県におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書より  
(鶴岡市データ抜粋)

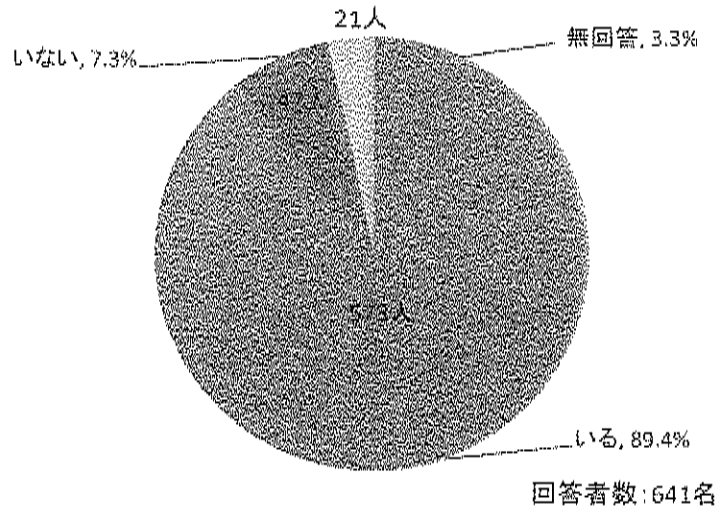
### 介護保険サービス利用の有無



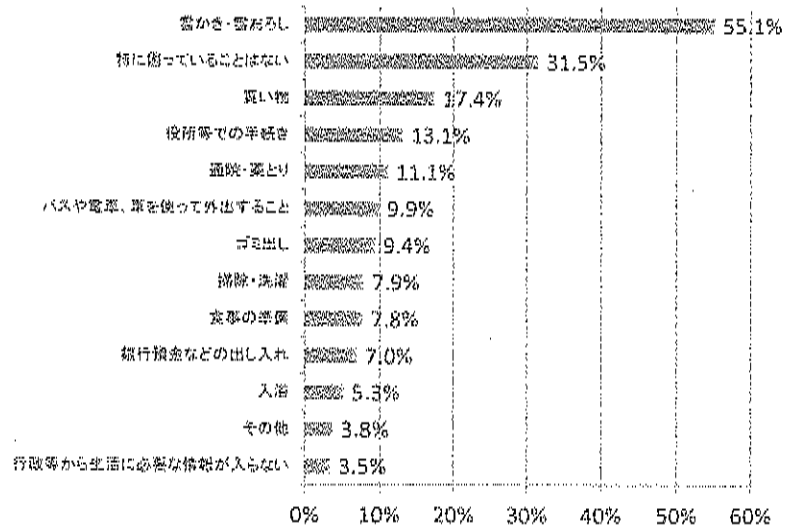
### 緊急通報システムの有無



### 緊急時支援者の有無



### 日常生活の困りごと(複数回答)



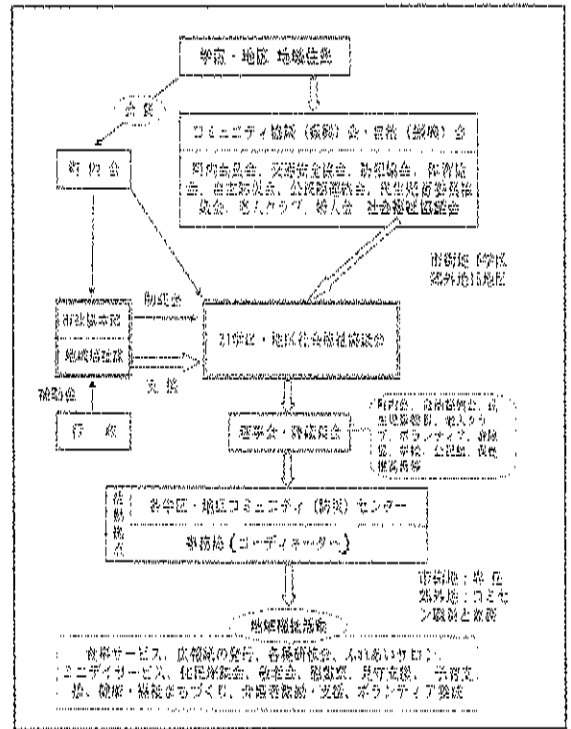
# 本市における地域福祉推進体制

## 鶴岡地域

鶴岡地域においては、市社協の働きかけにより平成8年度までに21全小学校区に学区・地区社協が組織化され、地域福祉活動を推進している。

学区・地区社協は、地区の関係団体代表者で構成する理事会・評議員会から成り立っており、各コミュニティセンターに事務局としてコーディネーターを配置し、コーディネーターを中心に地域福祉事業を展開している。

学区・地区社協は、主に地域住民の会費と市社協からの助成金により運営されており、市社協からの助成金は、各地区により相違はあるが、全学区・地区社協に配置されているコーディネーターへの謝金及び活動費に充てられている。

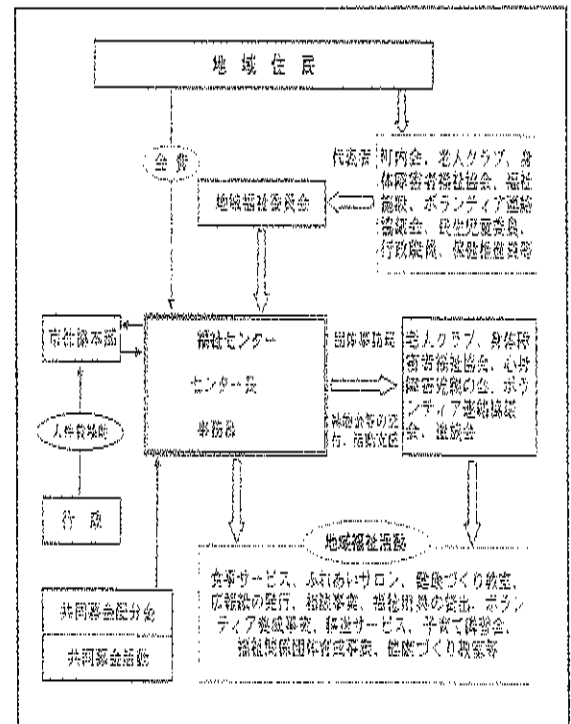


## 藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海地域

藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海地域では、旧町村当時の社会福祉協議会機能がそのまま引き継がれ、市社協の福祉センターとして位置づけられている。

各福祉センターにはセンター長を含む市社協職員4名を配置し、町内会代表等福祉関係団体の代表者で構成される地域福祉委員会の意見を踏まえながら地域福祉活動を展開している。また、福祉関係団体の事務局を受け持ったり、団体活動助成金を交付するなど、団体活動を支援するとともに、連携した地域福祉活動を推進している。

職員人件費は行政からの補助金により賄われており、地域福祉活動の財源については会費の一部と共同募金の配分金が割り当てられている。



# 学区・地区社協による見守り・支え合い活動事例

## 第一学区安心安全絆づくり推進会議「誰も孤立させない絆づくりプロジェクト」

平成26年5月、高齢者が安心して暮らせる地域づくりを目指し、コミュニティ振興会、町内会協議会、学区社協、民協、防災団等による「第一学区安心安全の絆づくり推進会議」を設置。各団体が一体となり、安心カード・サロンの推進、災害時要援護者の支援マップづくりなど、「地域の見守り・支援の仕組みづくり」「災害時支援体制づくり」に取り組んでいる。昨年度は、東北公益文科大学の協力により高齢者意向調査を実施し今後は生活支援サービスの試行も視野に入れながら、オール第一学区で地域の課題解決を目指した活動を進めている。

## 第三学区社会福祉協議会「ご近所福祉協力員の配置」

民生児童委員の活動負担が増えてきたことや複数の町内会で孤立死があったことから、第三学区社協では平成24年の秋から約一年半かけて、町内会長を対象としたアンケート調査、検討会議・研修会を実施し学区の実態に合った見守りの仕組みを検討。その後、挙げられた意見をまとめ、平成26年4月より、できるだけ小さな区域（概ね30世帯以内）を担当して見守りを進める「ご近所福祉協力員」の制度を開始する。平成27年9月現在、12町内会で180名以上の協力員が配置され、ある町内会からは異変を発見し専門職につないだ事例も報告されている。

## 田川地区社会福祉協議会「おだがいさま見守りネット」

「田川元気会議-SENEBA-」でまとめられた福祉課題に対応するため、田川地区社協では平成23年度より福祉隣組長の配置、安心カード・サロンの推進、支え合いマップづくりなど様々な見守り・支え合い活動を実施してきた。今年度は、その集大成として、地区内の住民や各種団体・機関と連携した緩やかな見守りのネットワークづくり「おだがいさま見守りネット」に取り組むとともに、11月には見守りの5W1H（いつ・どこで・誰が・なにを・なぜ・どのように）をまとめた手引きを発行することとしている。



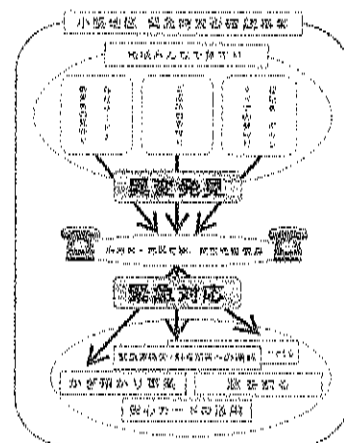
## 由良社会福祉協議会「地域連絡用無線と連動した見守り活動」

由良地区では、平成24年2月から11月にかけて隣組長や隣組福祉員・各種団体を対象に住民座談会を行う中で、災害に対する高齢者の不安が大きくなったことが明らかになった。そこで、32人の隣組福祉員の役割を見守りに特化（見守り・声かけ、②異変時の連絡等）。あわせて地域連絡用無線システム（ちょっときてボタン）を活用することで、これまで続けてきた見守り活動をより強化して展開している。

## 小堅地区社会福祉協議会「緊急時安否確認事業」

一人暮らしの住民が自宅で亡くなり、数日後に発見される出来事が続いたため、小堅地区社協では、緊急時対応の仕組みづくりに力を入れている。その一環として、緊急時に鍵を使って家屋に入り、安否確認する「かぎ預かり事業」を平成26年12月に開始した。現在、一人暮らしの方10世帯が自宅の鍵を自治会館に預けている（平成27年9月現在）。

前年度から開始した「安心カード設置事業」「窓割り協定」と一体的に普及させていくことで、異常事態への発見・連絡・対応を迅速かつ多様なケースに対応できる活動にしている。



◎学区・地区社会福祉協議会活動等一覧

学区・地区社協名	基本データ(平成27年3月現在)				
	人口 (人)	世帯数 (世帯)	高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	平均世帯員数 (人)
第一学区社会福祉協議会	10,591	4,154	3,119	29.4	2.55
第二学区社会福祉協議会	7,672	3,127	2,152	28.1	2.45
第三学区社会福祉協議会	12,706	5,542	3,604	28.4	2.29
第四学区社会福祉協議会	9,535	3,990	3,124	32.8	2.37
第五学区社会福祉協議会	8,808	3,786	2,467	28.0	2.33
第六学区社会福祉協議会	11,842	4,710	3,277	27.7	2.51
斎地区社会福祉協議会	2,134	692	567	26.6	3.08
黄金地区社会福祉協議会	1,939	563	670	34.6	3.44
湯田川地区社会福祉協議会	1,154	441	413	35.8	2.62
大泉地区社会福祉協議会	4,274	1,554	1,012	23.7	2.75
京田地区社会福祉協議会	1,793	561	420	23.4	3.20
栄地区社会福祉協議会	957	265	311	32.5	3.61
田川地区社会福祉協議会	910	271	312	34.3	3.36
上郷地区社会福祉協議会	2,354	694	786	33.4	3.39
三瀬福祉のまちづくり協議会	1,482	506	508	34.3	2.93
由良社会福祉協議会	1,119	388	398	35.6	2.88
小堅地区社会福祉協議会	823	254	324	39.4	3.24
加茂地区社会福祉協議会	1,206	460	490	40.6	2.62
湯野浜地区社会福祉協議会	1,354	630	577	42.6	2.15
大山社会福祉協議会	6,929	2,486	2,448	35.3	2.79
西郷地区社会福祉協議会	3,337	1,067	982	29.4	3.13

※基本データは「鶴岡市地区別高齢化率等各種データ」より抜粋。地区の区分けが実態と異なる場合がある。  
 ※福祉協力員・安心カードは設置人数、会食交流会は延べ参加者数、配食サービス・生活支援型配食は

主な活動内容(平成26年度実績)

福祉協力量員の設置	安心カード	会食交流会	配食サービス	生活支援型配食	広報紙の発行	研修会	福祉座談会・連絡会	ニーズ把握(アンケート等)	福祉・防災マップづくり	地域福祉活動計画づくり	健康・福祉まつり	健康講座・体育大会	地区敬老会	サロン活動実施	サロン活動支援	子育て支援	介護者支援	認知症支援	生活支援(除雪等)	世代間交流	高齢者等訪問支援	ボランティア・リーダー養成	当事者団体支援
38	691	742	6		12	○	○	○	○			○		○	○			○		○		○	
	228	345	253		1		○				○				○					○	○		
180	371	433	54		2	○	○				○	○		○		○	○			○		○	○
172		560	51		2	○		○				○			○					○		○	
92	233	425	134		4	○	○			○		○			○		○			○		○	○
	577	369	76		2	○	○				○	○						○		○	○		
7	30		103		2						○	○	○	○		○				○			○
14	8		25		1		○				○	○	○		○	○							
5	40	186			3	○	○		○			○	○	○		○						○	○
24	63		108		2	○	○		○		○	○	○		○	○				○			○
12	205	128	99		1	○	○				○	○	○	○	○	○				○			○
7	13		92		2	○	○				○		○		○					○			○
8	22	114				○	○	○	○			○	○	○	○	○					○		○
26	88	160				○					○		○		○					○			○
	61		241		2	○	○	○			○	○								○			
32	247	73			3	○	○				○			○					○	○			○
29	38				1	○	○				○					○			○				
15	50	8	220									○	○	○				○				○	○
5		91			1	○						○	○	○	○					○			
193	152	278		960	1	○	○				○	○	○			○					○		○
34	136		60										○								○		○

ありますので、取扱いにご配慮ください。  
 延べ利用者数、広報紙の発行は年間発行回数を記載。

## 市社協が実施する見守り・支え合い関連事業

### 1. 福祉コミュニティづくり事業〔鶴岡地域〕 (平成 27 年度予算額 5,530 千円)

学区・地区社協に活動助成金を交付するとともに、21 学区・地区社協の会長により構成されている学区・地区社協連絡委員会と連携して各種情報交換会・研修会等を開催します。

助成金額：学区社協、大山社協：290,000 円 地区社協：230,000 円

<平成 26 年度の情報交換会・研修会開催状況>

活動種別	開催回数(回)	延べ参加者数(人)
学区社協コーディネーター定例会	3	65
学区社協ヒアリング	5	47
地区社協代表者情報交換会	3	57
学区・地区社協役員・コーディネーター等研修会	1	107

### 2. 会食・配食交流事業〔鶴岡地域〕 (平成 27 年度予算額 11,407 千円)

学区・地区社協などが実施主体となり、在宅で生活している高齢者の閉じこもり防止や介護予防、地域社会への参加を進めることを目的に、関係機関やボランティアサークルの協力を得て、会食やレクリエーション等による交流活動を実施します。

<平成 26 年度の実施状況>

学区・地区名	実施回数	会食者数	配食者数
第一学区	15	742	6
第二学区	14	345	253
第三学区	12	433	54
第四学区	12	560	51
第五学区	12	425	134
第六学区	12	369	76
斎地区	3		103
黄金地区	2		25
湯田川地区	12	186	
大泉地区	10		108
京田地区	23	128	99
栄地区	6		92
田川地区	10	114	
上郷地区	5	160	
三瀬地区	12		241
由良地区	5	73	
加茂地区	5	8	220
湯野浜地区	3	91	
大山地区	10	278	
西郷地区	2		60
計	185	3,912	1,522



### 3. おだがいさまのまちづくり事業

(平成 27 年度予算額 3,365 千円)

住民の地域福祉に対する理解と意識高揚を図るため、小地域にネットワーク活動を構築するとともに誰もが住み慣れた地域で暮らし続けていくために地域住民が福祉課題を共有し、問題解決のために地域の福祉力を強化することを目的とします。

#### (1) おだがいさまネット活動推進事業

住民同士または住民と関係機関がチームを組み、支援を必要とする方のニーズに合わせた個別的なネットワークづくりに取り組みます。また、一人暮らし高齢者等の緊急時に備える安心カードの設置を推進します。

#### <平成 26 年度おだがいさまネット活動実施状況>

センター名	事業内容
鶴岡福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おだがいさまネット活動推進モデル事業（田川地区社協）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣組単位の実態調査で 45 人の「気になる人」を把握（内 32 人には電話確認、13 人には電話確認・訪問活動を実施）</li> <li>・個別支援を通して地域課題を把握する会議を 2 回開催</li> <li>・要援護者マップを作成し一人暮らし世帯の基本情報・緊急連絡先等を管理</li> </ul> </li> </ul>
藤島福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふじの花ねっとについて説明 藤島庁舎市民福祉課、包括支援センターふじしまと連携し、福祉関係機関以外の民間事業所、医療機関等を対象にした会議を開催した。7 月、2 月開催。参加者計 100 人。</li> </ul>
朝日福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>①近所の支え合い 朝日あんしん見守りモデル事業 上名川集落：対象者 6 人、見守り隊：訪問活動 354 回</li> <li>②黄色い旗運動 上田沢集落：61 世帯（全世帯）</li> </ul>

#### <平成 26 年度安心カード設置状況>

地域名	実施主体	設置対象者	設置場所	設置人数	消防への登録人数
鶴岡 (19 地区)	学区・地区社協 (民協)	ひとり暮らし高齢者、その他地区で必要と認められる方や希望者等、地区ごとに異なる	電話機付近または冷蔵庫周辺等	3,253	3,018
藤島	福祉センター	ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、障がい者、その他必要と認められる方	電話機付近	175	89
羽黒	福祉センター	ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、障がい者、その他必要と認められる方	電話機付近	515	515
榑引	各地区	ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、その他地区で必要と認められる方や希望者等、地区ごとに異なる	冷蔵庫のドアポケット ※冷蔵庫の表面に「安心」のマグネットを貼る	722	722
朝日	福祉センター	ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、障がい者、その他必要と認められる方	冷蔵庫のドアポケット ※冷蔵庫の表面に「安心」のマグネットを貼る	329	329
温海	福祉センター	ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、障がい者、その他必要と認められる方	電話機付近	732	未実施
計				5,726	4,673

(2) 地域福祉活動推進支援事業 [鶴岡地域]

学区・地区社協等が実施する地域特性に応じた先駆的な地域福祉活動・地域福祉型サービスを支援します。

助成金額：一事業につき 100,000 円を限度

<平成 26 年度の実施状況>

No.	団 体 名	活 動 名
1	第一学区社会福祉協議会	高齢者救急安心カード事業
2	第二学区社会福祉協議会	救急安心カード事業
3	第三学区社会福祉協議会	安心カード整備
4	第五学区社会福祉協議会	第二次地域福祉活動計画策定
5	第六学区社会福祉協議会	地域の支え合いネットワーク推進事業
6	湯田川地区社会福祉協議会	福祉防災マップの作成と一人暮らしおよび高齢者世帯見守り支援活動
7	京田地区社会福祉協議会	地域高齢者安心環境づくり推進活動
8	上郷地区社会福祉協議会	高齢者安心カード事業
9	加茂地区社会福祉協議会	加茂安心カード
10	大山社会福祉協議会	大山地区安心カード設置事業

(3) 福祉活動支援事業

学区・地区社協、町内会・集落等の自治組織、または、住民団体等を単位とした「住民主体」による地域福祉活動の充実を図るため、住民自らが地域の福祉課題に気づき、お互いに支え合えるような地域の構築を目指し、支援します。

助成金額

区 分	助成金額	実施要件
サロン活動	10,000 円以内	年 5 回以上開催
ボランティア活動	10,000 円以内	年 2 回以上開催
住民福祉座談会等	20,000 円以内	年 1 回以上開催
人材育成	20,000 円以内	年 1 回以上開催
福祉研修・講座	30,000 円以内	年 1 回以上開催
地域福祉サービス等	35,000 円以内	新規事業実施の初年度 1 回

<平成 26 年度の実施状況>

地 域 名	サロン活動	住民福祉座談会等	ボランティア活動	人材育成	福祉研修・講座	地域福祉サービス等
鶴 岡	129 か所	37 か所				
藤 島	21 か所	1 か所	2 か所	0 か所	2 か所	0 か所
羽 黒	9 か所	7 か所	0 か所	0 か所	0 か所	2 か所
柳 引	3 か所	2 か所	2 か所	0 か所	3 か所	0 か所
朝 日	4 か所	1 か所	0 か所	0 か所	0 か所	0 か所
温 海	1 か所	4 か所	0 か所	0 か所	1 か所	0 か所
計	167 か所	52 か所	4 か所	0 か所	6 か所	2 か所

#### (4) 地域支え合いプラン策定事業

地域の当面の重点的な地域課題に焦点を当て、その解決にあたる目標や方策などを整理した「地域支え合いプラン（地域単位の福祉活動計画）」を、各地域において策定委員会を開催し進めます。

<平成 26 年度の実施状況>

地域名	計画名	実施年度
藤 島	みんなの藤島いいごプラン	平成 27 年度～平成 31 年度

#### (5) 地域福祉担い手発掘・養成事業

小地域での見守り・支え合い活動を充実していくために、中学校区・小学校区エリアにおける地域リーダーの役割を担う人材の発掘・養成を行い、住民主体組織等の地域福祉活動を推進する人材の確保を図ります。

<平成 26 年度の実施状況>

研修名	主な内容	実績等
地域福祉委員合同研修	基調説明（市コミュニティ推進課より） シンポジウム「これからの住民主体による地域福祉活動と求められる仕組みづくり」	68 人参加
地域福祉リーダー養成研修	話題提供（学識者・第四学区社協より） グループワーク「お茶のみサロンの課題を解決しよう」	43 人参加

#### (6) 人にやさしいまちづくり事業

高齢者や障がい者、子育て家庭などが、地域の中で安心して暮らすことができる環境づくりや、生活支援のために社協独自の福祉サービスを行います。

<平成 26 年度の実施状況>

福祉センター	実施内容	実績等
鶴 岡	筆談ボードの設置（郵便局）	31 か所
藤 島	チャイルドシート貸出（15 台整備）	25 件
羽 黒	擬似体験（高齢者、視覚、聴覚、筆イス等）	1 回
	音声コード入り広報紙の発行	3 回
	障がい者用駐車場（青色駐車場）の整備	1 か所
	チャイルドシート貸出（50 台整備）	57 件
	こころの健康づくり講演会の開催	110 人参加
榎 引	ゲートキーパー研修の開催（2 回）	32 人参加
	チャイルドシート貸出（118 台整備）	202 件
朝 日	子育てサポーター養成講座（6 回）	延べ 65 人参加
	愛のふれあいコンサートの開催	100 人参加
温 海	筆談ボードの設置（賛助会員）	26 か所
	チャイルドシート貸出（7 台整備）	10 件
	バラ園入口スロープ整備	

### (7) 福祉関係団体等助成事業

福祉団体並びに当事者組織の活動を支えるために助成金を交付します。

<平成 26 年度の実施状況>

	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	計
団体数	11	9	4	3	4	4	35
助成額(円)	563,000	365,000	210,000	65,000	295,000	325,000	1,823,000

### (8) 孤立しがちな人の社会参加支援事業

ひきこもり支援や自殺予防などについて、各関係機関・団体との情報交換、連携しながら対策を検討し、また、ゲートキーパー研修会等を行い課題に取り組みます。

<平成 26 年度の実施状況>

内 容	実施対象等	実績等
ゲートキーパー研修	生活支援員、一般住民、市社協職員(鶴岡地域)	37 人参加
	1・2 地区語らいひろば参加者	28 人参加
	3・4 地区語らいひろば参加者	33 人参加

### (9) 仲間づくり交流事業

会食会の開催等により、交流と情報交換・提供の機会をつくり、介護予防や地域での生きがいと仲間づくり、さらに、見守りと生活支援を図ります。

<平成 26 年実施状況>

	藤島 (ふれあい給食)	温海 (語らい広場)	温海 (あったか弁当)	計
実施回数	3	3	11	17
参加人数	132	234	1,873	2,239

## 4. 地域福祉運営事業

(平成 27 年度予算額 2,653 千円)

住民の福祉に対する意識高揚を目的に、福祉活動に関する講演や社協事業を紹介する「福祉のつどい」の実施、長寿者をお祝いするための「鶴亀番付」の発行、さらに、コミュニティソーシャルワークの実践を目的とした知識・技能を習得するための研修会を行い、地域福祉の推進を図ります。

## 5. 福祉有償移送サービス事業

(平成 27 年度予算額 8,458 千円)

バスやタクシーなどの交通機関を利用することが難しい高齢の方や障がいのある方が、通院や買い物などに出かけたいときに福祉車両「おおぞら号・ほほえみ号」で送迎する会員制の移送サービスです。

<平成 26 年度の実施状況>

	鶴岡 (S61 年度開始)	朝日 (H16 年度開始)	温海 (H9 年度開始)	計
利用登録者(人)	407	25	60	492
運行回数(回)	5,961	218	163	6,342

## 6. 老人福祉センターの運営

(平成 27 年度予算額 18,218 千円)

60 歳以上の高齢者が気軽に利用して一日を楽しく過ごせるよう、レクリエーションや講座などを行うほか、健康相談などを実施しています。

<平成 26 年度の利用者数>

鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	計
20,079	2,736	2,461	1,694	26,970

## 7. 地域福祉センターなえづ管理事業

(平成 27 年度予算額 308 千円)

地域の研修や福祉活動の拠点としてご利用いただけるように施設を開放しています。

開放施設：第 1、第 2 研修室

<平成 26 年度の利用実績>

回数(回)	利用者数(人)
101	1,227

## 8. かたぐるまの施設設備の提供

地域の皆様の研修や福祉活動の拠点としてご利用いただけるように施設を開放しています。

<平成 26 年度の利用実績>

	団体事務室	会議室	軽運動ホール	多目的ホール	計
延利用回数(回)	117	123	157	86	483
延利用人数(人)	798	1,001	1,937	1,001	4,736



# 誰も孤立させない絆づくり



「もしも……」のために

平成25年6月 地域ケアネットワーク会議を設置

構成 学区社協・振興会・町内会協働会・民生児童委員協議会・包括支援センター  
市社協

救急安心カードの設置に取り組む 27年1月現在登録 771人

高齢者の安全安心に関することが頻発、一段と急速に進む高齢化

地域課題の掘り起こし

まず、平成26年度～ 基礎的調査 生活課題の把握  
災害時要援護者支援者の把握、支援マップの作成

## 第一学区もご多分にもれず急速に進む少子高齢化

### 将来推計人口及び高齢化率

区 分	2010年	2020年	2030年	2040年
総数 (人)	10,502	9,465	8,311	7,219
年少人口	1,430	1,107	875	761
生産年齢人口	6,097	5,176	4,399	3,524
老年人口	2,974	3,183	3,037	2,928
年少人口	13.60%	11.70%	10.50%	10.60%
生産年齢人口	58.10%	54.70%	52.90%	48.80%
老年人口	28.30%	33.60%	36.50%	40.60%
人口指数	100	90	79	69

2010年高齢化率28.3% 75才以上人口割合14.6%

2040年高齢化率40.6% 75才以上人口割合24.4%

10人に4人が65才以上、4人に1人が75才以上

## 町 別 人 口 推 計

(出典：山口泰史による推計結果)

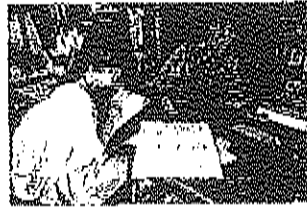
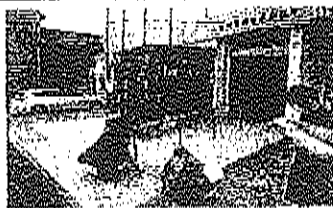
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
本町二丁目	37.4%	42.3%	46.6%	47.8%	46.6%	47.3%	49.3%
三日町	38.0%	41.2%	39.9%	41.6%	43.4%	47.5%	47.4%
豊町	31.7%	34.8%	37.4%	39.4%	41.3%	41.5%	44.1%
三光町	38.1%	42.2%	43.0%	43.2%	43.2%	43.2%	44.1%
沢原町	34.0%	38.2%	40.8%	39.7%	40.6%	41.3%	41.7%
文徳町	42.0%	43.6%	42.9%	45.3%	45.2%	46.4%	46.8%
平石町	33.0%	34.3%	35.5%	35.8%	36.7%	36.3%	38.2%
長谷町	29.7%	35.5%	39.2%	38.3%	38.5%	40.6%	39.6%
成澤町	18.7%	23.7%	28.2%	32.6%	35.0%	36.7%	38.5%
深谷町	23.5%	27.6%	30.5%	30.1%	32.4%	35.7%	40.1%
のぞみ町	9.4%	11.2%	11.8%	14.0%	17.4%	21.1%	24.4%
口成	18.8%	21.2%	24.1%	27.8%	19.9%	32.8%	37.3%
第一学区	28.3%	31.6%	33.6%	35.2%	36.5%	38.3%	40.8%

町の中の  
限界集落



### 生活課題の発見

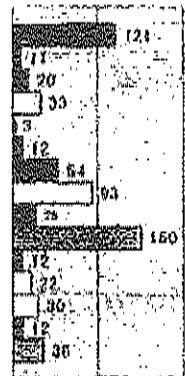
26年度 プロジェクト 概要  【基礎調査】	まちかど(バリアフリー)調査	高齢者や障がい者が社会活動に積極的に参加し、日常生活が支障なく過ごせる環境づくりを目指す。 2014.6.20 東北公益文科大学生18名 実地調査 調査箇所 コミセン、一斗、医療機関、支店、金融機関等
	高齢者意向調査	訪問聞き取りやアンケート調査等により、高齢者の普段の暮らしぶりや困りごとなど、日常、地域で潜在化している生活課題を探る。 回収済み320件 東北公益文科大学生訪問聞き取り 7.11 45世帯
	データ解析	高齢化率等、地域の現状と10年後の将来を予測し、地域の動向、特性を把握する。
	見守り、避難支援の仕組みづくり	秋急安心カード更新の取組み、災害時の要支援者及び避難支援協力者を把握するとともに、管内全体の防災マップをつくる。
	生活支援サービスの試行	高齢者の生活ニーズ(課題)を地域のメンバーが支援解決に向けた取組みを執行する





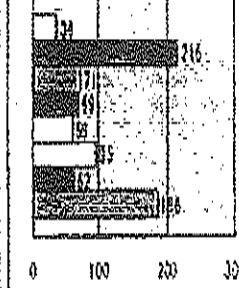
調査で見えてきたもの  
・高齢者意向調査結果

日常生活のこまごごと



- 物になし
- その他
- 現金の出し入れ
- 移動手段
- 地域のイベント
- 田畑の手入れ
- 近所者の交換
- 服の手入れ
- 通函、薬受け取り
- 掃除、掃除機
- 洗濯
- 入浴
- お風呂、洗濯
- 食事する所がない
- 食料買物、調理

災害時に不安に思うこと



- その他
- 電気等が使えず
- 薬
- 避難所に行けない
- 家族が近くにいれない
- 食料・水の備蓄無し
- 避難所分からない
- 家屋の倒壊・倒壊

災害ごときで地域から犠牲者を出さないために

まずは支援が必要な方の情報を集め、把握しましょう

- 災害時、行政・消防の本格的な救援までは時間がかかる。被害を最小限にとどめ、地域から犠牲者を出さないためには、迅速な避難誘導体制(共助)が決め手
- 同じく三軒両隣、遠くの親戚より近くの他人、地域の協力を
- そのためには、平常時において、本人同意(手上げ方式)のもと、手助けが必要な要支援者・避難を手助けする避難支援協力者を把握しておく必要
- 手上げによる要支援者に漏れがないか、市と情報交換を進め、要支援者リストの精度をあげる

- 要支援者の例  
自力で避難することが困難、避難に手助けが必要で、本人の同意がある方
- ・要介護認定を受けている方
  - ・障がい者手帳の交付を受けている方
  - ・病弱の方
  - ・認知症の方
  - ・その他、町内会が支援が必要と思われる方

救急安心カードを基礎として、町内会役員・民生委員等の訪問聞き取りやアンケート調査により把握

- ・外出時には車椅子を利用
- ・移動も歩行も困難
- ・家で座席に座っている
- ・介護施設、病院を利用中
- ・一人歩きはできない

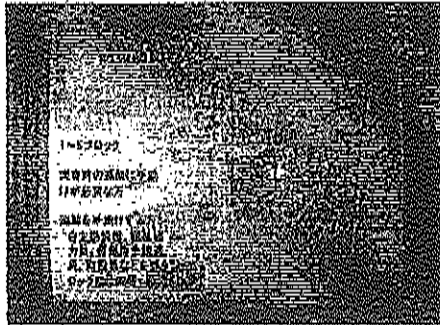


**次に、支えあい支援マップの作製**

遠くの親戚より近くの他人、お互いが見守り合う地域社会づくり  
町内会の白図に要見守り支援者、災害時のいっとき避難所などを記入

**本町二丁目東町内会**

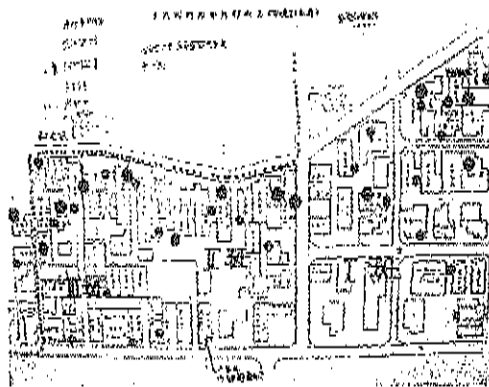
普段の活動 声かけ・見回り  
毎月15日一人暮らし高齢者宅等を町内  
会役員、民生委員、福祉協力員、保健衛  
生推進員等が手作りのカードをもって訪問。



**町海老島町内会**

災害時避難所支援者 13人  
支援協力者 25人

町内会役員・民生委員・若狭町・福祉協力員がボランティアセ  
ンターが製作したケロちゃんタオルを持参して見守り、防災訓  
練時には声掛けを実施





## 推進会議を設置したわけ(理由)

平成26年5月 第一学区安心安全の絆づくり推進会議を設置

構成 学区社協・振興会・町内会協議会・民生児童委員協議会・防災団・防犯協会  
保健衛生推進員会・老人クラブ・体育協会・福祉協力員部

協力 包括支援センター・市社協・市(地区担当職員・健康課・コミュニティ推進課・  
防災安全課・長寿介護課) 東北公益文化大学

### 1. 言葉句「近隣関係の希薄化」では済まされない !!

- 高齢者の困りごと、生活のしづらさは日々の暮らしの場=地域で生じている  
高齢化に伴う生活上、身体上の不自由は誰にも生ずること、  
地域で生じている問題は、地域で解決するしかない、他人ごとにならない  
将来を見据え、体力のある今のうちに出来ることをみんなで出し合うことで  
地域に支えあいの仕組みを作る必要があるとの認識
- 災害時の犠牲者の65%以上は高齢者 自力で脱出したり、避難したりすることが困難  
阪神淡路大震災時、生き埋めや閉じ込められた際の救助 救助隊わずか1.7%  
本格的な救助には時間がかかる 2014.11「白馬村の軌跡」  
向こう三軒両隣「近助」の「顔見知り」をつくることが必須

情報や喜劇的な事々の共有

講演会、合同研修会、ワークショップなどの場を重ねる



## 2. 第一学区社協自体の事由

- 学区社協の態勢の弱さ、独自に事業を推進するには町内会に「軸足」がない  
事務局長は非常勤、活動の担い手、町内会長が役員の大層を担っている。  
福祉協力員、民生委員も町内会の推薦、社協会費も町内会が集金。  
学区社協は町内会に基礎を置いており、町内会が社協活動推進のための土壌と  
なっている。拠り所は町内会、町内会を中心に事業推進のために合意形成を図る場  
を創出した
- 学区社協単独の力では限界、学区内の団体と手を組む  
死角、地域の団体がバラバラに活動しがちであるが、取り組みを通じ町内会レベル  
で各団体を横につなげる、ネットワークを構築することで行動力を高める
- 専門性 東北公益文科大学の協力

## 気をつけていること

### 急がない、一律の速度、高みを目指さない

一学区・12町に24の町内会 40～600世帯。進め方、スピード、到達点はそれ  
ぞれ、町内会員の意識づくり、取り組みに対する理解を広めることから始める、趣  
意金などの話し合いを丁寧に、要請に応じ町内会での説明会開催等のサポート。

### 出来ることからやる、一気に広げないで段階的に取り組む

災害時要援護者の把握や避難支援態勢づくりは、最初から完璧は無理、継続し  
た取り組みで熟度を上げていく

### 新たな支え合いのネットワークを拡げる

学区でいろいろな団体をつなげ、町内では会長を中心に町内のいろいろな団  
体の役員、個人(元気シニア、若者、サークル会員、PTAなど)がつながるように  
工夫していきたい。  
コミセンだより(学区社協だよりを統合)で情報を共有、活動費も振興会と学区社  
協で出し合う。

## [まとめ]

誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域社会とするためには  
人と人とのむすびつき、信頼関係があればこそ  
このプロジェクトを通じ、オール第一学区の地域住民の支えあい、近隣関係のネットワー  
クをつくってほしい



結果として、町内会・振興会の活性化につながるのではないが  
ただし、こうした取り組みは多様な活動が必要で、役員の主体性と多くの地域住民の参  
加が必要、やるからには継続できること、覚悟が必要

課題 ・町内会役員の高齢化と活動役員の固定化、短任期

例えば[元気シニアの参入]

・組織的、継続的な活動を支える財政基盤

[新しい組織改革、一斉額の還元]

・地域住民の意識醸成、日ごろの交流や信頼関係、顔見知りへの構築

[男性の高齢者、地域とのつながりが切れている]

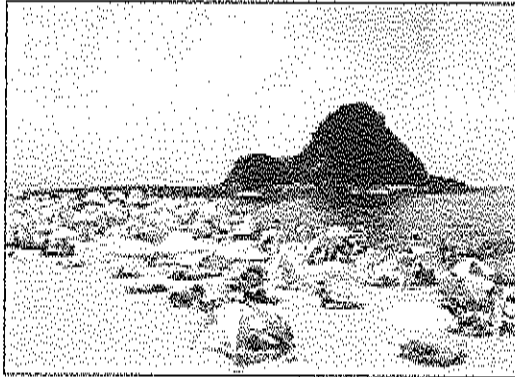
・行政、指導機関、民間事業所との分担、協力

[地域包括や地区担当職員の地域配属、情報の共有]

## 「多様な知恵と地区の強みを活かした見守り・支え合い活動」

鶴岡市由良社会福祉協議会会長 佐藤 美喜雄

### 地区の特徴



由良地区は、鶴岡市の西部に位置する海岸地帯。沖に浮かぶ白山島を要に扇状に形成された地域で、日本の渚100選に選ばれた由良海岸や奇岩八乙女浦などの恵まれた自然景観を有している。

日本海の豊富な魚介類により古くから漁業が盛んで、由良漁港では底曳網漁、定置網漁、磯見漁などで、タイ、タラ、サケ、イワガキ、アワビなどを水揚げしている。

地区内に自治会は1つでコミュニティセンターの管理運営と町内会・住民会機能を併せ持っている。また、隣組は32組あり、組単位に「隣組福祉員」が配置され、緩やかな見守り活動が行われている。

平成26年3月末日現在の人口は1,123人、世帯数は387世帯。少子高齢化が進んでおり、平成25年度の出生者数はわずか7人、高齢化率は34.9%と、市平均よりも4.5ポイントも高い割合となっている。また、一人暮らし高齢者と高齢者のみ世帯の合計比率は21.1%で、市内26地区中5番目の高さとなっている。

### 取り組みのきっかけ

平成22年度に由良社会福祉協議会（以下、「由良社協」という）で取り組んだ「防災・福祉マップづくり」の作業の一環として、過去10年間の70歳以上の高齢者数の推移を調査したところ、当地区の高齢化は想像以上に進んでいることが把握できた。同時に、このままのペースで少子高齢化が進んでいくと、地区住民が抱える生活課題は、今後ますます複雑・多様化していくと思われ、強い危機感を感じた。

また、市社会福祉協議会（以下、「市社協」という）が、平成23年5月に策定した地域福祉活動計画には、地域における支え合い活動を推進していくためには、住民の生活課題を具体的に把握し、それらを地域全体の問題として受け止めることが必要であると明記されており、非常に共感した。

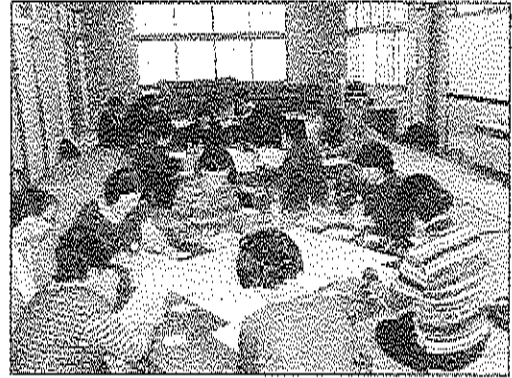
そのような中、平成23年の秋に、地域包括支援センターから地域ケアネットワーク構築のために、由良社協と連携して地域課題や高齢者ニーズを把握したいという申し出があった。個人的には、すぐに申し出を受けたかった気持ちもあったが、副会長はじめ、他の役員の意向を丁寧に聞き取る必要性を感じたため、約半年をかけて、各役員への承諾を得て、平成24年2月から取り組みを開始した。

## 活動内容

### (1) 地域課題の把握（平成24年2月～11月）

この10ヶ月間で、由良社協役員、隣組長、隣組福祉員、婦人会役員、保健衛生推進員などを対象に福祉座談会を3回にわたって開催し延べ64名の参加者から「身近な地域で困っていること」「課題に対して自分たちにできること」について162の意見をいただいた。

また、併せて、地区内の23名の一人暮らし高齢者や48名の中学生・高校生から生活上の困りごとやご近所づきあい・支え合いに関する意識などを伺うアンケート調査を行った。



福祉座談会の様子

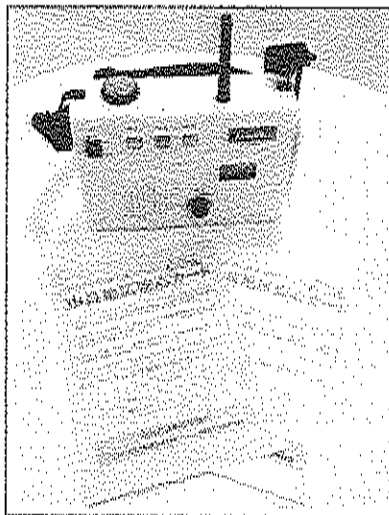
### (2) 重点課題の整理・冊子化（平成24年12月～平成25年3月）

福祉座談会・アンケート調査の結果から、今後、由良社協が概ね2年をめぐり、関係団体・機関と連携しながら取り組んでいくべき重点課題を「一人暮らし高齢者等の災害・緊急時への対応」「一人暮らし高齢者等の見守りの仕組みづくり」「健康や介護に関わる相談窓口の明確化」「住民が気軽に交流しやすい機会と場づくり」の4つに整理し、「福祉座談会・アンケート調査のまとめ」を発行、全世帯に配布した。

### (3) 重点課題に応じた見守り・支え合い活動の実施（平成25年4月～現在）

#### 【重点課題①：一人暮らし高齢者等の災害・緊急時への対応】

当地区では、平成25年9月より全世帯を対象に緊急通報機能（ちょっときてボタン）を備えた地域連絡用無線「AI・NEED」が導入されている。



「AI・NEED」と「安心カード」

由良社協では、この取り組みに合わせて、同年10月より一人暮らし高齢者と高齢者のみ世帯を対象に「安心カード（※1）」を配布、その後、カード設置を希望する一般家庭の方々にも配布し、現在、計211名の方のご自宅にカードが設置されている。

また、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯については、カードの複写を自治会、民生児童委員に配布するとともに、市社協を通して市消防本部にカード設置者名簿を提出し、情報共有を図っている。

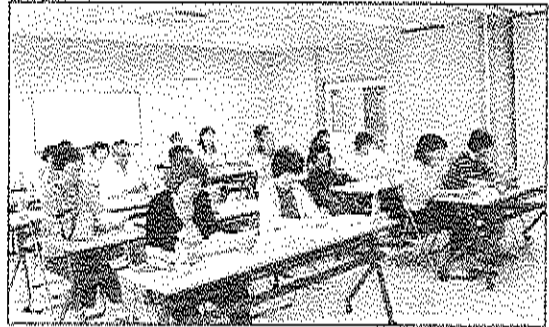
※1 急病やケガで救急車を呼んだ時に、救急隊や医療機関へ必要な情報（かかりつけ医、緊急連絡先など）をより早く、正確に伝えるためのカード。



### 【重点課題②：一人暮らし高齢者等の見守りの仕組みづくり】

従来からの隣組福祉員（計32名）による見守り活動を継続・発展していくために、福祉員の役割を①見守り・声かけ、②異変時の連絡、③由良社協活動への協力の3つに絞り、周知用チラシを作成、配布した。なお、前述した「安心カード」の配布・回収も福祉員にお願いしている。

また、平成25年度より、福祉員を対象とした研修会を開始。今年度は、見守り活動の重要性や異変に気づくためのポイントなどを具体的に学ぶことのできるような内容で2回開催する予定としている。



隣組福祉員研修会の様子

### 【重点課題③：健康や介護に関わる相談窓口の明確化】

由良社協が開催する研修会やイベントの中で、地域包括支援センターや地区担当保健師を住民に紹介する機会を意識的につくっている。

また、専門機関に連絡することに抵抗のある方の相談や、隣組福祉員による異変時の連絡などの窓口を、民生児童委員だけでなく、自治会（コミュニティセンター）にも依頼し周知を図っている。

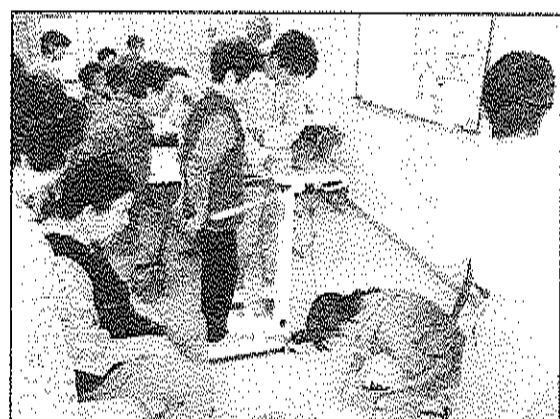
### 【重点課題④：住民が気軽に交流しやすい機会と場づくり】

平成25年12月より、コミュニティセンターを活用して「ゆらふれあいサロン」を開設。以後、月1回の頻度で開催し、毎回35～40名程度の参加者が集まっている。

また、従来から中学校と連携して「健康福祉まつり」における中学生ボランティアの受入れを行ってきたが、今年度からサロンでも受入れを行うこととし、現在、その準備を進めている。



「ゆらふれあいサロン」の様子



「健康福祉まつり」での中学生ボランティア

## 活動内容のポイント

### (1) 専門職・関係団体との連携

一連の活動を由良社協、自治会、地域包括支援センター、市社協、地区担当保健師で構成されたプロジェクトチームで検討した。平成24～25年度の2年間で開催したプロジェクト会議は計37回に上る。

また、検討内容によっては、民生児童委員や保健衛生推進員、PTA・婦人会役員の方々からも会議に参加していただいたため、様々な視点から活動を検討することができた。

### (2) 地域課題を正確に把握するための工夫

福祉座談会は、複数のグループに分かれ、カード記入方式で実施し、一部の参加者の発言のみで終始しないように配慮した。また、一人暮らし高齢者のアンケート調査は、由良社協役員や民生児童委員が個別に聞き取りして行ったため、調査票の回収率は92%に至り、精度の高い調査活動となった。

### (3) 地区の「強み」を活かした見守り・支え合い

見守り・支え合い活動を具体的に企画する際は、地域連絡用無線システムや隣組福祉員、オープンしたばかりのコミュニティセンターなど、地区の特徴的な資源を活かした取り組みとなるように配慮した。

### (4) 地区住民への活動の周知

それぞれの活動の目的や実施状況等は、由良社協広報紙「しらいわ」を通して、住民に随時、お伝えしている。とくに「安心カード」については、地区内のより多くの住民が知っておくことで、その設置効果は一層高まると思われたため、繰り返し掲載している。

## 活動の成果

当地区は、地震や津波に対する助け合い意識が高く、それが日常生活にも反映されている住民同士の絆の強い地区と自負していたが、今回の福祉座談会やアンケート調査により、時代の流れとともに、それが弱まりつつあることを把握できた。まだ支え合い意識が残っている今の内に、地域課題を把握し、見守り・支え合い活動に取り掛かることができ、本当に良かったと思っている。

それぞれの活動の具体的な評価は、平成27年度に行う予定だが、例えば「安心カード」の普及率の高さや「ゆらふれあいサロン」参加者の表情などを見ても、一定の成果はあったと感じている。

また、一連の活動を地域包括支援センター、市社協、地区担当保健師と一緒に進めたことで、現在は、それぞれが困った時に招集し合えるほど、関係が深まっている。当地区にとって心強いサポーターを得ることができたと感じている。

## 取り組みの評価（H27上半期）

### <活動報告会>

- 平成27年6月、民生児童委員・主任児童委員・保健衛生推進員、婦人会・漁協婦人会・文化財愛好会・グラウンドゴルフサークル代表者などに呼びかけて開催。
- これまで取り組んできた見守り・支え合い活動の現状や成果を共有。
- 活動展開上の課題や、その対応策についても話し合った。



## 取り組みの改善（H27下半期）

項目	活動展開上の課題	解決の方向性
安心カード	いまだに安心カードのことを知らない住民がいる。 なんとなくは知っているが、その役割や設置場所等までは理解していない住民も多い。	福祉員が困った時に頼れる人がいてほしい⇒「安心カード普及専門員」の配置。 実際に書いてみる、設置してみることが一番の周知方法。住民全員にカード設置を勧める。
隣組福祉員	今後、ますます見守りを必要とする住民が増えていくと思われるが、民生委員と隣組福祉社員だけで孤立死・認知症の徘徊問題等に対応しきれぬか不安がある。	地区住民・組織、関係機関等が普段の暮らしや業務の中で、もう少し「見守り」を意識する必要がある⇒緩やかな見守りネットワークをつくってはどうか。

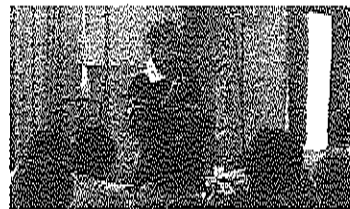
## 取り組みの改善（H27下半期）

項目	活動展開上の課題	解決の方向性
相談窓口	異変に気づいた時の日中の連絡窓口はわかったが、休日・夜間の窓口が不明確。	休日・夜間の窓口を決める ⇒自治会長、民生委員・主任児童委員と検討。
サロン	男性参加者が1人もいない。小学校統合により、地区住民と子どもたちとの交流機会が減っている。サロンを活用して交流を図る必要がある。	地区の男性はカラオケ好きが多い。カラオケサークルを立ち上げては？「ふるさとかるた」を使ってサロン参加者と子どもたちとの交流を図る。健康福祉まつりで、子どもとお年寄りがふれあうコーナーを設置。
全取り組みの共組課題	さまざまな取り組みを一部の役員が企画から実施まで担う体制の限界。事業参加者以外の生活課題が把握しきれていない。	20歳以上の住民全員を対象に社協活動への関心や日常生活上の困りごとを問う記名式のアンケートを実施。その後、活動の担い手や要援護者の掘り起しを行う。

## すぐに始まった取り組みも・・・

### <安心カード普及専門員の配置>

- 元自治会の地域防災用無線普及担当に依頼。
- 全世帯へのカード設置を目標に活動中。



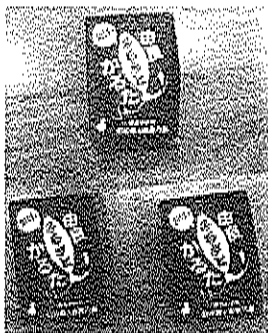
### <休日・夜間の連絡窓口の明確化>

- 自治会長、由良社協会長・副会長、民生児童委員・主任児童委員からの承諾を得て、まずは福祉員用のチラシに掲載。

## すぐに始まった取り組みも・・・

### <サロン参加者と子どもたちとの交流>

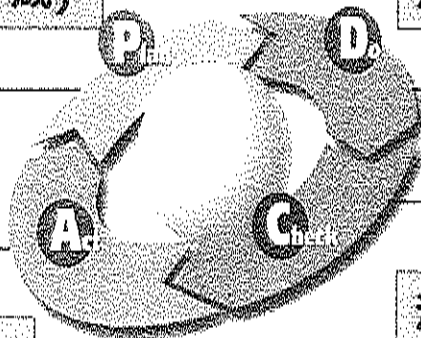
- 由良地域協議会（ゆらまちっく戦略会議）が中心となって作成した「由良ふるさとかるた」を使って交流。



## 「PDCAサイクル」を意識しながら活動に取り組めます！

重点課題の整理  
(小冊子の作成)

重点課題に応じた  
活動の実施



PJ会議で  
活動の見直し

活動報告会で  
成果・課題を共有  
改善策を協議



ふじしま地域支え合いプラン

# みんなの藤島いいとごプラン

2015～2019



題：未来の藤島

藤島小学校 2年 丸山 ゆうひ

～ひとりがみんなの  
みんながひとりの支えになれる地域づくり～

## 地域支え合いプランとは！

5年・10年先の少子高齢社会を見据えた藤島地域の生活課題について  
みんなで一緒に考え誰もが暮らしやすい藤島になるように  
どのような支え合い活動が必要かをまとめた計画です  
一人一人が「できることを！できることから！」みんなで実行し

私たちの藤島を誰もが住みやすいもっといいとご！にするためのプランです！

藤島地域 地域支え合いプラン策定委員会

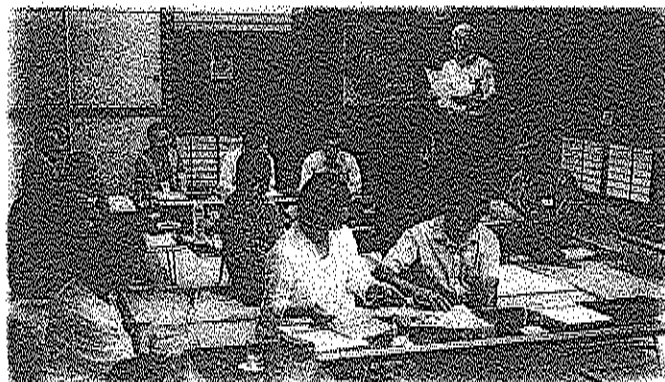
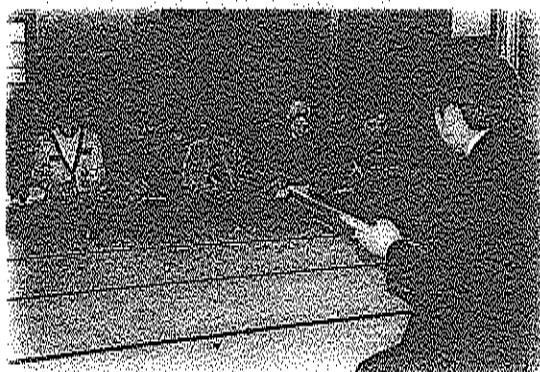
社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会 藤島福祉センター





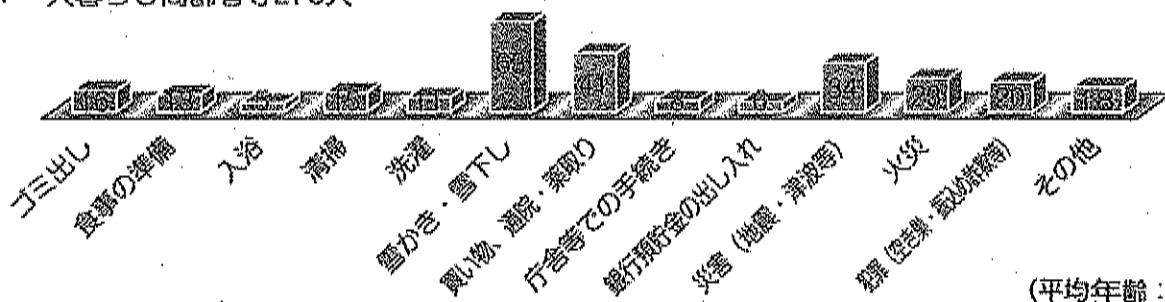
このプランは地域の皆さまの声を基に作られました

- ◎一人暮らし高齢者世帯への訪問調査 171世帯
- ◎住民座談会の開催 43町内会
- ◎「アンケート」「聞き取り」 延べ約900名
- 「四つの窓」などの調査活動 15団体
- ◎策定委員会の開催 6回

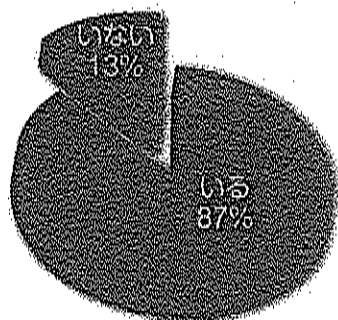


日常生活で困っていること、心配なことは？

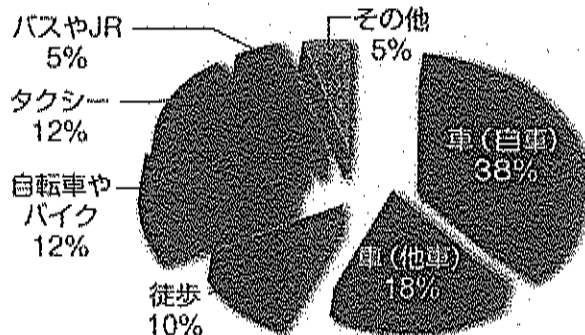
対象：一人暮らし高齢者等273人



困りごとがあった時、身近に相談できる人がいますか



通院や買い物に出かける時は何で出かけますか



多くの皆さまからご参加いただき実施した座談会や様々な調査結果を基に

「4つの重点目標」を定めました!!

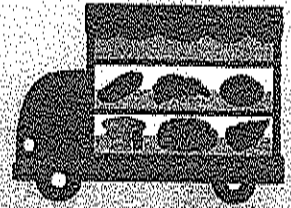


# みんなで取組む4つの重点目標

## 1. 移動や買い物に不便を感じない地域づくりの推進

### 現状（地域の声）

- ・一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯の買い物が心配
- ・車など移動手段がなく買い物、通院に不便している
- ・地区に大きなスーパーなどがなく買い物が大変
- ・運転免許証を返上すると移動ができず生活が不便になる



### ●地域でできること！

- ・ついでに買い物や乗り合わせを心掛けるなど、地域内で移動手段がない人を気にかける
- ・移動、買い物支援の新たな仕組みづくりを検討する  
（地縁組織を活かした仕組み、商工業者の宅配、移動販売の活用など）

### ●福祉センターで取組むこと！

- ・移動、買い物支援の新たな仕組みを地域と一緒につくる
- ・宅配を行う事業者の情報を整理して「冊子」として発行する
- ・福祉バス等を活用して買い物など新たな外出機会を創出する



## 2 私たちができる！地域における支え合い活動の推進 《地域での見守り、声かけ、健康増進活動》

### 現状（地域の声）

- ・町内会で孤独死があった、高齢者世帯や老老介護世帯が増えている
- ・電灯の点灯や新聞、郵便などが滞っていないか隣近所の見守りが必要
- ・老人クラブがなくなりサロンのような高齢者が気軽に集まれる場が必要
- ・サロンに行きたくてもサロンが実施されていることを知らない人が多い
- ・健康寿命を延ばして、地域で生活する期間を延ばす

### ●地域でできること！

- ・一人暮らし高齢者などの生活状況の変化に気付いたら民生児童委員等へ伝える
- ・隣近所で誘い合いながらサロン等に参加する
- ・隣近所での声かけや見守り活動などを地域で広める
- ・健康増進（介護予防活動）や認知症について学ぶ機会をサロン活動等に盛り込む

### ●福祉センターで取組むこと！

- ・サロンを主体とした地域での見守り、支え合いの仕組みをつくる
- ・地域福祉活動の情報交換会や研修会、発表会などを開催し地域福祉をより活性化させる

### 3. 福祉関係機関以外の事業所、学校等との協力関係の構築

#### 現状（地域の声）

- ・（金融機関窓口で）通帳を何度も再発行する人がいるため認知症などが心配される
- ・新聞が何日もたまっていた家で、中で亡くなっていたことがあった
- ・藤島らしく農業と福祉をもっと連携して取組めないか

#### ●地動でできること！

- ・言動が心配と思われる人や「おやっ！」と思う人がいたら、福祉関係機関に連絡する
- ・認知症について学ぶ機会をつくる
- ・農業と福祉を一緒に盛り上げていく仕組みづくりを検討する

#### ●福祉センターで取組むこと！

- ・庁舎市民福祉課、地域包括支援センターふじしまと連携し、福祉関係以外の事業所との「地域ケアネットワーク会議」を開催し顔の見える関係をつくる
- ・広報「おたがいさま」藤島版等を活用し、各事業所が行う福祉活動を紹介する
- ・関係機関と連携し農業と福祉が連携した新たな取組みを検討する

### 4. 自治振興会と協働した地域福祉活動の推進

#### 現状（地域の声）

- ・地域活動センターと連携し、高齢者が元気になる取組みを考えてほしい
- ・特に見守りの必要性を感じている一人暮らし高齢者を対象に手作り弁当を配食している
- ・地域活動センターと福祉センターとの福祉の役割分担はどうするのか

#### ●地動でできること！

- ・自治振興会や町内会が行う行事などに積極的に参加する
- ・自治振興会が実施している一人暮らし高齢者への配食事業など地域福祉活動の充実
- ・住民の生活課題や思いなどを把握し福祉活動につなげる

#### ●福祉センターで取組むこと！

- ・自治振興会と協働して取組む地域福祉事業を提案する
- ・情報交換会を開催し地域福祉の向上を目指す
- ・ボランティア研修会を開催し地域の応援団を発掘する

この目標を実行するのは

平成 27 28 29 30 31 年度 です。

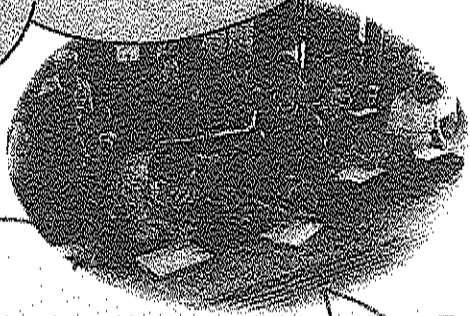
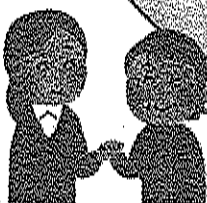
進捗状況を常に確認し中間年の平成29年度に見直しも含めた中間評価を行い検証していきます



## こんな〇〇な藤島だったらいいなあ!

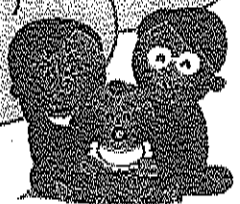
### こんな 支え合える! 藤島だったらいいなあ!

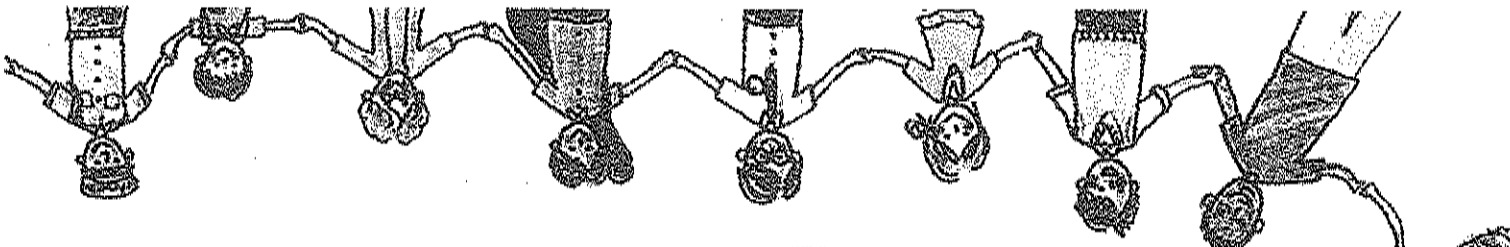
近所の人どうしの交流が増えるといいなあ!  
一人暮らしの高齢者をみんなで見守りができるまちがいいなあ  
空き家を使って地域で集える場ができるといいなあ~  
1週間に1回でも巡回バスがあると便利でいいなあ!  
農業と福祉ってもっと連携できないかなあ(°^°)  
子どもからお年寄りまで元気に過ごせる地域だったらいいなあ!  
不審者がいない地域だったらいいなあ!  
老人クラブの加入率が上がればいいんども!  
小学校の空き部屋を使って託老所ができないかなあ



### こんな やさしい! 藤島だったらいいなあ!

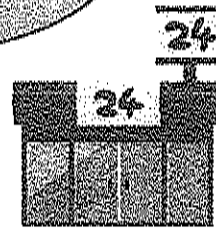
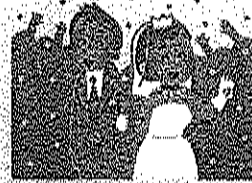
誰にでも親切にできるまちだったらいいなあ(°〇°)  
子育てしやすい環境だったらいいなあ!  
ゴミが落ちていないきれいなまちになればいいなあ(°v°)  
みんなであいさつができる藤島だったらいいなあ(^\_^)  
自然が豊かに残る藤島がいいなあ!





こんな **活気がある!** 藤島だったらいいなあ!

農家レストランがあればいいなあ!  
人が集まってきて賑やかになればいい!  
働く場所が今よりふえてほしいなあ!  
スーパーやコンビニが近くにできると便利だのなあ!  
若者がどんどん活躍する地域だったらいいなあ!  
子どもが増えて活気あふれる藤島になれば!  
お嫁さんがどんどんくる藤島になればいいなあ!

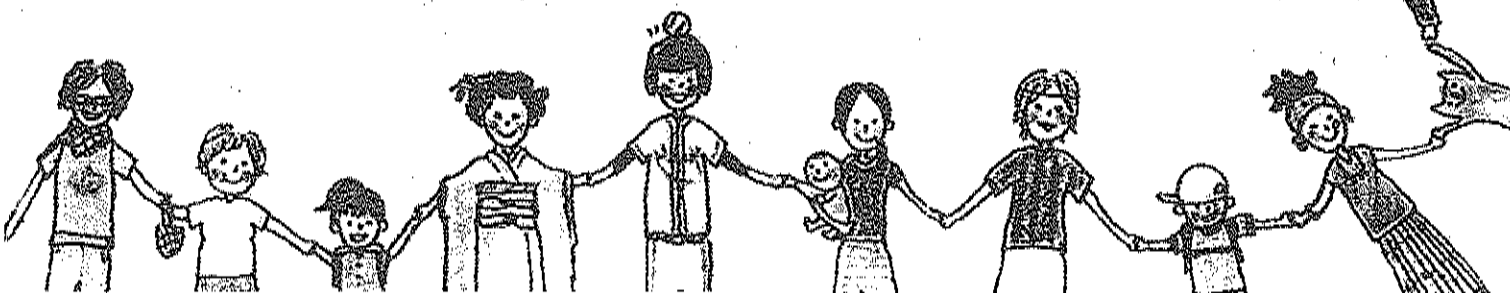


こんな **楽しい!** 藤島だったらいいなあ!

観光スポットができたらいいなあ!  
藤島といえば○○○!という観光の目玉になるもの  
があるといいなあ!  
藤島ランド!があればいいなあ!  
楽しめる場所がほしいなあ!

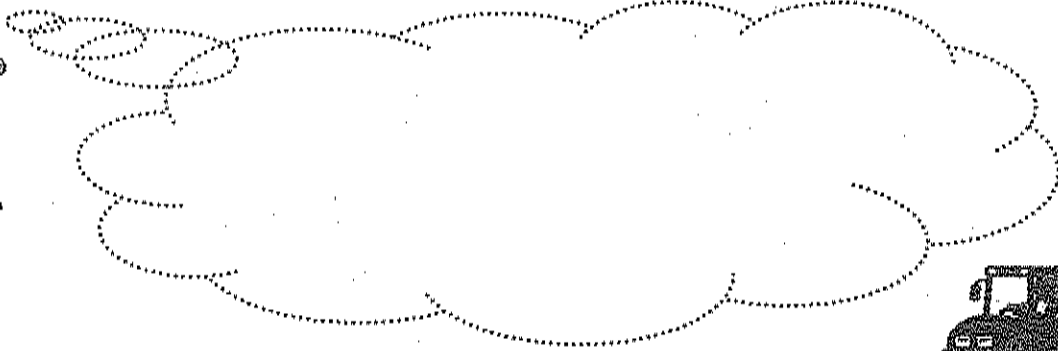


小学生からお年寄りの方まで皆さんに  
「将来、こんな藤島だったらいいなあ!」という希望や夢をお聴きしました!

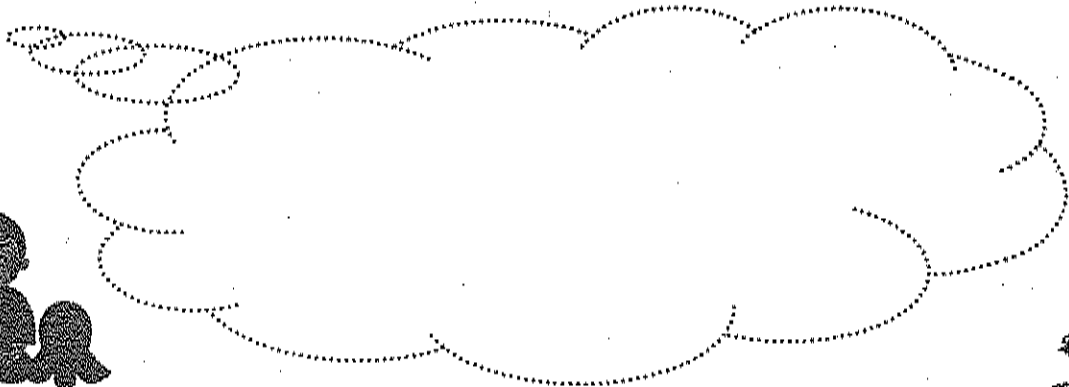


最後に

あなたが思う「将来、こんな藤島だったらいいなあ」とは？



こんな藤島だったらいいなあ、にするために「あなたにできること」は？



鶴岡市社会福祉協議会 藤島福祉センターは

住民主体の「支え合い活動」を応援し誰もが住みやすい地域になるよう

皆さんと「福祉のまちづくり」を一緒に進めていきます。

「将来、こんな藤島だったらいいなあ」が少しでも実現されるよう

「あなたにできること」を福祉センターと一緒に進めていきましょう。

おたがいさま



編集・発行

藤島地域 地域支え合いプラン策定委員会

〒999-7601 鶴岡市藤島字古楯跡94-1

TEL 0235-64-3100 FAX 0235-64-5706

この冊子は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。

